

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金 ・直営	事業実施状況	事業 実施主体	事 業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
総務企画部	高石 稔	地域企画課	企画地域 振興班	佐藤 正美	018-860- 3313	環八郎湖・流域の 未来プラットフォーム 形成促進事業	八郎湖及び流域の自然再 生活動を自立的かつ持続 的なものとするため、そ れら活動に対して支援す るほか、各活動団体や各 関係者のネットワークの 構築などを図る。	2,943,813	直営、 委託	・八郎湖自然再生活動を行って いる5団体へ活動費の助成 ・H23.9.23八郎湖へ親しみ、触 れることを目的としたカヌー乗 船体験を実施(参加者数50名) ・植生再生地区にある粗朶消波 堤の粗朶消波堤の粗朶補充を実施。	県	八郎湖自 然再生活 動団体、 地域住民	平成23年4月1日	八郎湖の自然再生を願い活動し ている団体に活動助成をするこ とで、それぞれの得意分野にお ける知識を活かし、八郎湖を フィールドにしたイベントを実 施。地域住民が八郎湖に触れ、 八郎湖の現状を知り、知識を深 めるきっかけを創出。住民意識 の向上を図ることができた。	八郎湖の自然再生活動を継続 し、地域住民一体となった取り 組みの実現のためには、活動団 体の基盤強化はもちろんのこと、 活動の担い手となる人材育成 にも目を向けた取り組みが必要 である。
						平成23年4月 ～ 平成24年3月									
総務企画部	高石 稔	地域企画課	企画地域 振興班	二木 茂希	018-860- 3313	地域資源フル活用 観光振興事業	ジオパークなどの地域資 源を活用した観光ルート を開発し普及啓発すると ともに、特徴ある体験・ 交流プログラムの開発を 行う。	2,633,433	直営、 委託	・H23.7.25～31男鹿市で小学生 を対象にしたサマキャンを開催 (参加者数96名) ・H23.10長者原SAで観光PRを実 施 ・H23.9「河北ウイークリセン だい」にジオパーク関連情報を掲載 しPR ・H23.10秋田県内情報誌「AG」 にジオパーク関連情報を掲載しPR	県	地域住民	平成23年4月1日	東北初の日本ジオパークに認定と なった男鹿半島・大瀧ジオパーク は、地域の新たな観光素材とし てマスコミにも取り上げられてき ている。各種媒体を活用した情 報発信により、地元住民の中で の認知度も高まってきている。	ジオパークを地域振興につなげて いくためには、地元住民も含め た一般住民への情報発信が不可 欠である。今後地元観光関係 者、自治体など一層連携を図 りながら、ジオパークを通じた 地域振興の取組を続けていく。
						平成23年4月 ～ 平成24年3月									
総務企画部	高石 稔	地域企画課	企画地域 振興班	花田 綾子	018-860- 3313	秋田の観光コン シェルジェ強化事 業	観光案内人・観光関係事 業者に対する講座の開催 や、観光案内人情報の発 信により、秋田地域のお もてなし力の向上を図 る。	684,886	直営	・H23.6,10,H24.2 秋田地域観 光案内人交流会開催(延べ参加 者98名) ・H23.11,12おもてなし向上講 座(韓国語)開催(計3回、延 べ参加者91名) ・H24.1 観光マナー向上セミナー開 催(参加者20名) ・観光案内人の情報チラシ作成 (一覧表1,000部、マップ 10,000部)	県	観光案内 人・観光 関係事業 者	平成23年4月1日	研修会や交流会等の開催によ り観光に携わる方達のスキル アップの場を提供できた。ま た、観光案内人情報を一元化し たチラシの配付により、観光案 内人の活用が促進された。	地元の受入に関わる人々のスキ ルアップをするとともに、今後 はスキルアップした人材の活用 の場を増やしていく必要がある。
						平成23年4月 ～ 平成24年3月									
総務企画部	高石 稔	地域企画課	企画地域振 興班	花田 綾子	018-860- 3313	食農親まるごと情 報発信事業	秋田地域内の優れた食資 源について、その食を作 る生産者・事業者と食の 背景となる地域情報をま るごと県内外へ売り込む ため、動画による情報発 信や管内関係事業者間の 交流会を実施する。	356,259	直営	・H24.2東京で開催した県主催 の観光商談会「あきた”食彩ま るごと”商談会」にブースを出 展 ・H23.7,H24.2食農親の関係者 を集めたネットワーク会議を開 催(参加者数延べ72名)	県	管内食品 関係事業 者、農業 者	平成23年4月1日	全国的には認知されていない管 内の食資源を東京でPRでき た。また、ネットワーク会議で は、管内で開発中の新商品につ いて関係者で意見交換をし磨き 上げを図った。	県外PRや研修会等への参加者 が一定の事業者に固定化されが ちであるため、魅力ある商品を 製造している事業者や、意欲あ る事業者の啓蒙普及や発掘をす る必要がある。
						平成23年4月 ～ 平成24年3月									

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金 ・直営	事業実施状況	事業 実施主体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
総務企画部	高石 稔	地域企画課	企画地域 振興班	花田 綾子	018-860- 3313	秋田地域ヤマビル 被害対策事業	ヤマビル吸血被害を防止 するため、各関係者による 研修会の実施、環境に やさしい駆除剤開発の支 援及び効果的なヤマビル 駆除方法を確立させるた めの実証実験等を行う。	2,358,816	委託・ 直営	・秋大が進めている新たな駆除 剤について委託による協同研究 ・県大に対し、ヤマビル被吸血動 物特定業務を委託 ・防疫薬剤を購入、重点防除地 域へ配布(12地区 4市町村) ・H23.11 井川町で金農生徒と 出前講座を開催(参加者30名) ・H24.3 被害連絡会議を開催 (参加者23名) ・一般住民を対象とした普及行 動を作成し配布(5,000部)	県	地域住民	平成23年4月1日	チラシや出前講座の開催によ り、ヤマビル生息域の住民に対 して、ヤマビルへの対処法につ いての普及啓蒙ができた。 また、各大学との協同研究によ り、ヤマビル対策に対する課題 が明らかになった。 被害対策連絡会議では、各関係 者の取組を情報共有することが できた。	新たな薬剤開発については、 市販化にむけて一定のめどがあ っているため、今後は地域住民 の手による試験散布等で実践的 な検証をする必要がある。 併せて重点防除地域への薬剤配 付などの地域住民や地元学生と 連携した防除活動や普及啓蒙活 動については、ヤマビルの被害 拡大を防ぐため継続的に実施す る必要がある。
						平成23年4月 ～ 平成24年3月									
総務企画部	高石 稔	地域企画課	企画地域 振興班	本間 忠	018-860- 3313	就職セミナー支援 事業	就職意識の向上と県内企 業への関心を高め高卒者 の県内企業への就職を促 進させるため、各校の キャリア教育とタイアップ した就職セミナーを開 催する。	64,860	直営	・H24.6.24(五城目高校:同校 OBによる就職講話・生徒との意 見交換) ・H23.9.27(明德館高校:経営 コンサルタントによる就職に向 けての講演) ・H23.10.26(聖霊高校:社員 教育インストラクターによる面 接のためのマナー講習) ・H23.12.9(金足農業:元ハ ローワーク所長による雇用の現 状と就職の心構えについての講 演)	県	高校生	平成23年4月1日	セミナーの開催により、就職希 望する高校生が、普段あまり聞 くことがない教員や家族以外の 講話などを通じ、就職に向けて の心構えや就職先の選択方法な ど、職業意識の向上を図ること ができた。	厳しい雇用情勢が続く中、新規 高卒者の早期離職率は高い水準 となっており、今後も各種セミ ナー等を通じ、職業意識の向上 を図って行く必要がある。
						平成23年4月 ～ 平成24年3月									
福祉環境部	小松 真吾	健康・ 予防課	健康・ 予防班	藤村 高広	018-855- 5170	地域医療を守る活 動普及事業	秋田周辺二次医療圏の急 性期医療機能は秋田市に 集中しており、当管内で は、救急医療の適正受診 や救急搬送体制の充実が 重要であることから、脳 卒中、心筋梗塞などの急 性期医療について、「大 人救急医療かかりかた」 として普及啓発に取り組 む。	207,258	直営	1 おとな救急かかり方研修会 開催(出席者40名) 2 リフレットの作成 20,000部	県	地域住民	平成23年4月1日	勉強になった等の意見が多く聞 かれ、適正な受療行動が見込ま れる。また、リフレットの活 用の要望もあった。	特に、救急搬送が必要な疾患 (脳卒中、心筋梗塞など)に対 する知識の普及は重要であり、 地域住民に対する適正な受診行 動についての普及啓発を継続し ていく必要がある。
						平成23年4月 ～ 平成24年3月									
福祉環境部	小松 真吾	健康・ 予防課	健康・ 予防班	田中久美子	018-855- 5170	心の健康づくり支 援事業	働き盛りの年代層と高齢 者の自殺者の減少を図る ため、住民ボランティア の人材育成を行うととも に、離職者・無職者を対 象とした啓発を行う。	346,987	直営	1 メンタルヘルスサポーター 養成セミナー3日間(参加者 実32名、延87名) 2 メンタルヘルスサポーター フォローアップ研修会1回 (参加者58名) 3 離職者・無職者対象の啓発 用リーフレット作成 (5,000部)	県	地域住民	平成23年4月1日	メンタルヘルスサポーターの活 動者数が243人と増え、活動が 定着しつつある。自殺者数も減 少傾向にあり、活動の効果が認 められる。 作成したリーフレットは、ハ ローワークや商工会、市町村の 協力を得て配布され、電話での 問い合わせ等の反応があった。	自殺者数は減少しているもの の、自殺死亡率は県より高率で あるため、引き続き人材育成を 進めるとともに、働き盛りの年 代層と高齢者対策に取り組む必 要がある。
						平成23年4月 ～ 平成24年3月									

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金 ・直営	事業実施状況	事業 実施主体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
福祉環境部	小松 真吾	健康・ 予防課	健康・ 予防班	市川由佑子	018-855- 5170	家庭・地域でできる 感染症対策事業	感染症の予防対策や発生 時の対応が正しく実行で きるよう施設職員及び地 域住民へ知識の普及・啓 発を行う。	260,228	直営	1 正しい消毒法と手洗いにつ いてのリーフレット作成 2 感染症予防講習会の開催 (出席者81名)	県	地域住民 施設職員	平成23年4月1日	感染症の流行時期に事業を展開 したため、参加者の反応が良 く、正しい対応を即実行する という声が多く聞かれた。 作成したリーフレットはラミ ネート加工により、掲示し活用 する施設もあり、配布の依頼も 多くあった。	集団発生は毎シーズンあること から、感染症流行時期には毎年 知識や実践術の再確認を含めた 普及・啓発が必要である。 また、家族内感染が疑われる事 例もあることから、地域住民へ の普及・啓発も強化する必要が ある。
						平成23年4月 ～ 平成24年3月							平成24年10月30日		
農林部	菊子 正稔	農業振興 普及課	企画班	照井 克彦	018-860- 3371	地域連携型新ビジ ネス創出支援事業	多角化経営による所得向 上と地域の活性化を図る ため、新たな地域特産品 の掘り起こしや地域資源 を組み合わせた商品を開 発する。	526,096	直営	1 マコモダケ加工品等検討会 を開催 2 農作業、食文化、観光資源 を組み合わせた体験型モニ ターツアーを2箇所で開催 ・参加者 のべ74名	県	マコモダ ケ生産 者、加工 品等試作 者	平成23年4月1日	・事業を通じ、生産者等の関係 団体、対象地域に対し、特産品 や地域資源の有効利用等、今後 の農業所得の向上や、地域活性 化に向けた新たな視点を示唆す ることができた。 ・主体的な活動を促す上でも有 効だったと考える。	・新たな地域特産物として位置 づけているマコモダケについて は、定着・拡大に向けた技術確 立や消費者へのいっそうのPR が必要である。 ・地域の活性化や所得向上のた めにはリーダーの育成や身近な 事物を地域資源としてとらえる 視点の醸成が求められる。
						平成23年4月 ～ 平成24年3月							平成24年11月7日		
農林部	菊子 正稔	農業振興 普及課	就農・起業 支援班	畠山真理子	018-860- 3413	直売活動強化支援 事業	各直売所の連携を図り食 向上を図るため、直売所 が主体となって実施する イベントなどに対して支 援する。	384,802	直営	1 しまったけ旨屋市の開催 ・出展者 のべ18団体 2 起業活動・商品開発研修会 の開催 計3回 ・参加者 115名 3 起業活動トップセミナーの 開催 ・参加者15名	県	直売所 リーダー 等	平成23年4月1日	・秋田駅前及び道の駅五城目 での「しまったけ旨屋市」の開催 により、幅広い消費者に会員直 売所のPRを行うことができた。 ・各種研修会の開催によりピク ルス等の商品化やレシピを販売 促進へ活用、収集した先進事例 を直売所運営に反映させること ができた。 ・本事業の実施を通じて、直売 所間の情報交換、商品交流が進 み、結果的に23年度の起業総販 売額は8億2千万円(対前年比 109%)となった。	・管内起業数は52起業で、うち 直売所は23カ所設置されている が、販売額は、8億2千万円に止 まっている。 ・直売連絡会としては、共通商 品の開発や独自イベントの開催 を通じ、会員相互の情報交換が 進み協力体制も整ってきている 。今後、市町村や地域団体と 役割を明確化し、事業を効果的 に進めるとともに、構築した ネットワークを新たな事業展開 に活かし、販路拡大を推進す る。
						平成23年4月 ～ 平成24年3月							平成24年11月7日		
農林部	菊子 正稔	森づくり 推進課	林業振興班	永井 秀樹	018-860- 3381	「夕日の松原」ク リーンアップ事業	地域住民・企業の参加に よる松林内のクリーン アップ活動の実施や、不 法投棄防止のための啓発 看板等を設置する。	503,370	直営	1 「夕日の松原」クリーン アップ実行委員会の開催 2 「夕日の松原」クリーン アップの実施 ・参加者 約700人 3 不法投棄防止のための啓発 看板を設置 ・計14基	県	地域住 民、企 業、各団 体等のボ ランティア	平成23年4月1日	・クリーンアップには、悪天候 にもかかわらず、企業・団体・ 地域住民等から約700人の参加 をいただき、実行することがで きた。 ・環境維持に関心のある企業だ けでなく、秋田地域外からの参 加もあり、県民の環境美化に対 する意識が向上しているものと 思われる。	・クリーンアップに参加した延 べ人員が7,000人を超え、松 林の保全と不法投棄が減少傾向 にあるが、ゴミ処理全量として は、横ばいとなっている。今 後も保安林の機能維持と地域住 民の意識の高揚のため、継続し た取組が必要である。
						平成23年4月 ～ 平成24年3月							平成24年11月7日		